

お蚕さま ようこそ筑波へ！

～ 世界遺産専攻 蚕飼育日記 ～

2015年5月22日から同年6月23日まで、富岡製糸場からいただいた蚕、約200頭を学生さん達と育てました。そのときの飼育日記を公開します。日記は、日々のメモから、M1のSさんが主にまとめてくれました。わたしは出張で、ほとんどお世話ができませんでした。その間、丁寧に世話をしてくれたSさん、Hさん、Jさん、Rさん、そのほかの学生のみなさん、どうもありがとうございました。

佐伯

5月22日

お蚕さまが富岡製糸場からいらっしゃいました。

3齢の蚕は2センチぐらいの長さで、黒っぽい色でした。

お蚕さま達は伊藤先生組（100頭）、佐伯先生の組（100頭）にわけて飼育を始めました。

新聞紙を敷いた箱の周りに壁を作り、上に穴を開けました。

温度の設定は24度にしました。

蚕は眠と脱皮を繰り返す習性があります。

蚕たちは、この日から眠に入りました。



来たばかりのころは、まだ小さかった。



飼育箱の準備

5月23日

ほとんどの蚕がまだ眠の状態だったので、この日は何もせずに済みました。

5月24日

半数の蚕が眠からさめて動き始めました。

元気な子たちは、飼育箱の壁を越えようとしていました。

私は蚕に触る勇気がなかったので、別の部屋にいた H さんをお願いして脱走した蚕を捕獲してもらい、20gの餌を箱ずつあげました。

人工飼料は桑っぽい匂いをしていて、触ってみると羊糞のようでした。

そして、蚕が脱走しないように、飼育箱の壁を高くしました。

帰る途中で素晴らしい夕日と変な形をしている雲を見ました。

あるテレビ番組によると、地震が起こる前に変な雲が見られるそうです。(ホントかな...)

5月25日

震度4度の地震がありました。

餌を60gずつあげた後、地震で倒れた蚕部屋の壁(新聞紙)を直しました。

幸い、地震で逃げた蚕はいませんでした。

5月26日

ひとつの蚕部屋あたり、60g、餌をあげました。

5月27日

ひとつの蚕部屋あたり、60g、餌をあげました。掃除をしました。

5月28日

蚕さんがなかなか眠に入らなかったため、糞を掃除してから、餌を、各部屋に25g程度、与えました。(Rさん)

5月29日

眠に入っていたので、この日は何もしませんでした。(Rさん)

5月30日

眠に入っていたので、この日は何もしてませんでした。(Rさん)

5月31日

五齢2日目に入り、蚕たちは動き始めました。箱を掃除して、300gの餌をあげました。この日から毎日掃除をすることにしました。



餌を食べている蚕の様子 (撮影者：Hさん)



掃除の様子

6月1日

掃除は J さんのおかげで無事に済みました。(まだお蚕さまに触ることのできない私は、ただそれを見守るだけでした。)

6月2日

16:00ごろに掃除しました。飼育箱ごとに、200gずつ餌をあげました。明日は餌を追加します。(Hさん)

伊藤先生組の蚕たちのうち、発育のよくない子たちは病気かもしれないので、特別室(小さな箱)に移しました。

6月3日

12:45ごろ、Sさんが掃除をしてくださいました。箱ごとに、200gずつ餌を追加しました。

6月4日

5齢6日目、蚕たちは、今日も生き生き、成長しています。掃除をしてから餌を400gずつあげました。

6月5日

掃除をした後、餌を250gずつ追加しました。

隔離していた蚕たちはまだ小さいけど、無事に生きているので元の箱に戻しました。



餌を食べている蚕の様子 (撮影者：Hさん)

6月6日

11:40ごろ掃除して、餌300gずつあげました。

何匹かの蚕たちは、餌を食べずに頭を立ち上げ、無言で「繭を作りたいので早く高いところに部屋を作りなさい」と要求しているようでした。

6月7日

今日はいよいよ上簇の時が来ました。

まぶしを立てようと思いましたが、なかなかうまく立てられませんでした。

そこでみんなと相談して、両側にダンボールを補強しました。

熟蚕たちは登山選手のようにどンドン上に登り、適当な部屋を探し始めていました。
残りの子たちも先輩の背中を見ながら一生懸命餌を食べています。



自慢のまぶし

6月8日

蚕たちが繭になり始めました。

今日繭の成果は：伊藤組：繭13個

佐伯組：繭40個 です。

（まぶしがあって）どうやら掃除が無理そうなので、わたしはもう、見守るしかないと判断しました。



蚕の様子（部屋は気に入ってくれたかな？）



6月9日

今日繭の成果は：佐伯組：繭69個

伊藤組：繭47個（中に汚れているものが4個ありました） でした。

伊藤組は餌50g追加しました。（Hさん）

6月10日

8日に、見守るしかない、と掃除をあきらめていたのですが、SさんとHさんがよい方法を考えてくれて、無事に伊藤組の飼育箱を掃除することができました。

そして、餌100gあげました。

佐伯組の蚕たちはほぼ全部、まぶしの上に登っていたので掃除しなくても大丈夫でした。

6月11日

繭がさらに増えました。

今日繭の成果は：佐伯組：繭73個

伊藤組：繭55個 でした。

6月12日

繭がさらに増えました。

今日繭の成果は：佐伯組：繭80個

伊藤組：繭61個 でした。

(6月13日—6月16日 この間は、実習に行っていたため記録はありません。)

6月17日

今日はいよいよ、繭の回収日です。伊藤組100個、佐伯組104個を回収しました。感謝の気持ちを含めて蚕たちにさようならをしました。蚕たちは富岡製糸場に戻って、いい糸になればいいですね。

6月23日

汚れていた繭(8個)は、富岡には戻さず、引き続き、観察を続けることにしました。下の写真は汚れた繭から羽化した蚕です。個人的には、もこもこした物は抵抗がないので、ちょっとだけ可愛いと思ってしまいました。



羽化した蚕

感想：

小さい時、母は虫を見ると必ず叫んでしまう人だった。そのため、私も虫を見たとき母の絶叫を思い出し、虫を怖がるようになってしまった。飛ぶ虫が一番苦手だが、柔らかか

いタイプもだめだった。

そんな私に、蚕を世話する任務が来た。最初のうちは、見ることすらほぼできなかったが、だんだん慣れてきて、今はすでに間近で見ても平気になって、たまに可愛さすら感じた。(触れるレベルにはまだ達していないが・・・)

蚕を世話する間、他の人の蚕飼育日記を読んで、そのおかげで知識も増えた。毎日、心配で、万が一みんな全部死んだらどうしようと思ったが、みんな無事に立派な繭を作ってくれた。

いろんな努力をしたが、情けないことに、今でも蚕に触れない。なので、ただ見守るだけだった。幸いHさん、Sさん、Jさん、SYさん、Rさんが、いろいろ手伝ってくれた。今後もし再び蚕を飼育するチャンスが来たら挑戦したいと思う。(M1 K・S)

これまで養蚕の現場などを見学した際に何度か蚕に触れる機会はありましたが、蚕を飼育することは初めてのことでした。私は以前養蚕について調べていたときがあり、養蚕の知識はある程度知っているつもりではいました。しかし、知っていることと実際に蚕を飼育してみるとやはり大きな違いがあります。蚕の成長に個体差がでてしまったり、飼料の減り具合が伊藤組と佐伯組で異なったりと、色々と試行錯誤しなければなりません。結果的に、無事に富岡市に蚕たちを繭の状態に戻すことができたのは、一緒に蚕の世話をしてくれた皆さんのおかげです。また、このような貴重な機会を得ることができ、富岡市の皆様にも感謝いたします。(M1 T・H)



繭ポーズで記念写真